せりよさ

好学　道義　根性

第77号　H27.2.3
沖永良部高等学校広報誌
〒891-9293　鹿児島県大島郡知名町余多241
TEL0997-93-2014　FAX 0997-93-2719
「せりよさ」は沖永良部島の古名

夢を叶えるために、幸せになるために

1学年主任　遠山　司郎

　1年生の学年朝礼でマジック・ジョンソン（プロバスケットボール選手）の言葉として、次の文章を読ませてもらいました。一部を紹介したいと思います。

「（前略）
決してあきらめては駄目だ。
自分のまわりをエネルギーであふれた、しっかりした考え方を持っている人で固めなさい。
自分のまわりをプラス思考の人で固めなさい。
近くに憧れる人がいたら、その人のアドバイスを求めなさい。
君の人生を変えることができるのは君だけだ。
君の夢が何であれ、それにまっすぐ向かって行くんだ。
君は、幸せになるために生まれてきたんだから。」

　夢を叶えるためには、幸せになるためには、今から9年前、ある先生の学級通信で出会った、清水英雄氏の「明元素」という言葉を思い出して、同じく読みました。

「ありがとう　充実している　できる　やってみよう　頑張ります　努力します　挑戦します　楽しい　うれしい　おもしろい　すばらしい　美しい　すてきだ　きれいだ」
（一部抜粋）

　1年生に対して話をしながら、ここで思い出したのは、歴代の沖高PTA会長のこの言葉です。（ここからは学年朝礼の講話に付け足した部分です。）

　「沖高の発展なくして、沖永良部の発展なし！」

　沖高を卒業すると、ほとんどの生徒たちが島を離れるこの時期に、沖永良部島のためにできることは何だろうかと、思いを広げてみてほしいと思います。テレビでは徳之島の成人式が取り上げられ、将来、島に帰ってきたい新成人は8割に上るというのを聞きました。Iターンで沖永良部島に移り住んで来る方々もいます。

　最後に1歳の息子が好きな「おかあさんといっしょ」の歌「ぼよよよん行進曲」から引用して終わりとします。

　「きみがほんとうにたかくとびたいなら、やっぱひざっこぞうにゆめのせて　『いちどしゃがんでジャンプ！』きぶんはどうだい？」

志望校合格へのラストスパート
～センター試験直前合宿～

　センター試験を控えた3年生25名が去る12月27日(土)～29日(月)までの2泊3日間、和泊町研修センターで「沖高振興事業センター試験直前冬合宿」を実施した。

　生徒達にとっては今年度に入って2回目の勉強合宿で、志望校合格を勝ち取るために、間違いのない戦略を立て、ラストスパートを一気に駆け上がるべく一心不乱に勉強に励んでいた。センター試験の問題は、きちんとじっくり時間をかければ解けるものばかりだ。しかし、本番では制限時間内に余裕を持って解ききることが最重要なので、前回の合宿では苦手分野の克服や十分な演習を目標に掲げていたが、今回の合宿ではキッチンタイマーやストップウォッチ等を使いながら時間を意識した演習に励んでいる姿が目立った。2日目は朝から夜まで10時間の集中学習日。休み時間は食事時を除けばほんの15分程度だったが、早々に食事を済ませ、全員が集合時間よりも先に机に向かっていた。「まだまだ不安な気持ちがあったけど、その気持ちを拭い去るために必死に取り組んだ」「時間があっという間にすぎた。ラストスパートを駆け上がるための良いスタートが切れた」などの感想から受験勉強に悔いが残らないよう精一杯取り組んでいた様子が覗えた。

　年が明けたらいよいよ勝負の年。不安な気持ちは簡単には消せないかもしれない。だけど声は出さずとも多くの人が応援している。その思いを味方に全力で試験に臨んで欲しい。

沖高振興事業「小論文ガイダンス」

進路指導部主任　栗ヶ窪　智恵理

　1・2年生対象の第2回小論文ガイダンスを12月25日に実施した。講師は前回に引き続き長岡裕子先生をお招きし、第1回の内容でお願いした。

　商業科対象の講座では、就職や専門学校入学試験を想定した内容、普通科対象の講座では、大学入試過去問などを例に「テーマ型・課題文型・データ型」の小論文についての内容であった。どちらの講座も反応が良く、実際に課題を与えられて原稿用紙に書く演習もしっかりと書けていた。書く速さや内容は個人差も見られ、継続的な指導が必要だと感じた。午後からは、希望者を募って講座を設定したところ、国公立大学に進学を希望する1年生（約30名）が参加し、意欲的に講義を受けていた。実際の大学入試では「課題文型」が最も多く、まずは「読む」力が求められている。日頃から文章を読み、正しく読み取る力を伸ばさなくてはならない。次回は新年度に予定している。

今までの努力が自信に
～3年大学入試センター試験～

　1月17日(土)18日(日)にかけて、センター試験が実施された。本校は例年、琉球大学で受験しており、そのため15日(木)に船舶にて沖縄へ出発し、19日(月)に帰着するという過密日程での受験となる。出発当日は強風と荒波のため、到着は予定より、2時間半遅れの午後9時半頃で、宿泊所で夕食と並行しながら、翌日以降の確認をした。

　16日(金)の午後は試験会場の下見に時間を割いた。それ以外の学習時間は、張り詰めた緊張感の中、誰一人として私語や居眠りをする者はなく、勝負にかける人間の真摯さが頼もしく思えた。

　試験初日、生徒諸君の口数は少なく、緊張した面持ちであった。1科目の地歴公民の試験終了後は、その緊張が上手い具合にほぐれて、休憩時間中の貪欲に教科書等を開く姿が、いつもの学校での風景と重なり、殆どの生徒が平常心を取り戻したように見え、そのまま2日目の試験まで向き合えた。全日程終了後は全ての生徒がやりきったという想いに溢れ、受験するまでの取り組みに対する一生懸命さが嬉しく思えた。

　受験は一発勝負で「失敗したらどうしよう」というイメージがどうしても湧いてくるが、その中で、平常心を保つには日頃のしっかりとした準備に対する自信でしか、マイナスイメージ拭うことはできない。後に続く1・2年生諸君には、それを肝に銘じて欲しい。

沖高同窓会総会・懇親会

　1月24日、沖高同窓会総会及び懇親会が198名の参加でフローラル館にて盛大に開催された。

　総会では事業や決算報告の承認等の後、卒業50周年生の卒業式参加についての報告もなされた。また新役員の承認も行われ、幹事に森富隆さん・今井三重子さん・逆瀬川逸子さん・宗武彦さんが新たに就任した。

　懇親会は、沖高エイサー部によるオープニングと宗岡與名彦さんの乾杯に続き、余興として「御前風」や「フラメンコ」、かわいい子どもたちの加わった「フラダンス」が披露され、愛くるしい姿や演舞に会場は魅了された。更に、大島郡の余興大会で4位の実績を持つ外山真司さんの演芸で、会場は一段と盛り上がりを見せた。

　また今年は、昼間のグラウンドゴルフ大会の表彰以外にも参加者の多い年代に「躍進賞」が設けられた。参加人数が大幅にアップした年代や若い参加者にも焼酎の景品があり、喜び溢れる顔が多く見られた他、「来年は我が年代も狙う」といった意欲的な若い世代の姿も見られた。校歌斉唱では一同が声高らかに熱唱し、母校への誇りを強く感じた瞬間だった。て、今井吉男さんによる万歳三唱で締めくくられた。

　参加者の方々からは「楽しかった」「来年も参加したい」というお言葉を多く頂くことができた。同窓生の皆様や沖高職員の協力により今年も盛大に終えることができ、深く感謝している。

沖永良部特別支援室の紹介

特別支援室担任　元尾　毅

沖永良部特別支援室は、山下美幸さん（2年）と吉富文也さん（2年）の2名が在籍し、午前中という限られた時間ではあるが、数学や国語などの教科学習や作業学習、自立活動といった学習に一生懸命取り組んでいる。

　特別支援室では、沖永良部高校の学校行事などを通して、高校生との交流学習を進めている。また、芸術教科の先生をゲストティーチャーとして招き、一緒に授業に参加してもらい、より専門的かつ楽しい授業作りに努めている。今でも先生方が牛乳パックを持ってきてくれたり、支援室に毎朝来て言葉を掛けてくれるなど、校長先生をはじめい[illegible]人のことを気に掛けてもらい大変感謝している。

　特別支援室の2名も、来年度は高等部の3年生となり、高校生活の締めくくりの年となる。沖高の同級生たちと行事や交流学習を通して、たくさんの思い出を作り、更に充実した学校生活が送れるよう頑張っていきたいと考える。

2月行事予定表

日	曜	行事
1	（日）	商業経済検定
2	月	ロードレース
3	火	ロードレース予備日
4	水	推薦入試
5	木	3年生出校日 1年生せりよさ発表会
6	金	奄同教研究・学習会
7	（土）	・
8	（日）	駅伝　開陽追試験
9	月	全校朝礼（服装容儀検査）
10	火	安全点検日 受験体験を聞く会（1・2年LHR）
11	（水）	建国記念日 2年進研マーク模試
12	木	3年生出校日 専門教育講座（講演会）
13	金	・
14	（土）	2年進研マーク模試
15	（日）	・
16	月	・
17	火	●学年末考査　交通安全の日
18	水	●学年末考査　沖高振興協議会
19	木	●学年末考査　3年生出校日
20	金	●学年末考査 新規原付免許取得者講習会
21	（土）	離島受講登録（開陽） 海岸清掃ボランティア
22	（日）	英語検定　日商簿記
23	月	・
24	火	学校保健委員会　学年末追考査
25	水	国公立大前期試験開始
26	木	特別時間割
27	金	卒業式予行　同窓会入会式
28	（土）	
1	（日）	
2	月	第65回卒業式

新人戦ベスト16!!
バスケットボール部

（部長　赤池　美南海）

　私たち男女バスケットボール部は、顧問の福田先生、上谷先生の御指導のもと、男子7名、女子9名の計16名で活動している。1月の県新人戦では男女とも頑張り、女子はチームの目標であったベスト16に入ることが出来た。3回戦は今大会2位の鹿児島女子高と対戦した。得点が離れ、負けている試合だったが、諦めず明るくプレーすることで、楽しさを見つけることが出来た。また1試合ごとに勝つ喜びを味わうことができた。

　現在体育館が工事のため、片面しか使用できない状況だが、他の部活動の協力もあって練習場所を確保している。周囲への感謝の気持ちを忘れず、総体までの残り少ない時間、互いに高め合っていきたい。